

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①自己肯定感を高める学習活動と教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を実現するための教育課程編成に取り組む。</p> <p>②「わかった・できた・つながった」を生徒が実感できる評価・授業の在り方の再整備を進める。</p>	<p>①主体的に学習に取り組む態度を育む授業を検討し、共有する。</p> <p>②自己肯定感を育み、学校目標に掲げる資質・能力の育成について実践を進める。</p>	<p>①学習目標設定や振り返りを重ねながら、学びに向かう力・姿勢の見取り方について、授業見学や研修会で共有し、実践を進める。</p> <p>②「わかった・できた・つながった」を生徒が実感し、学びを活用して他者と協働しながら学習を進める授業の実践を進め、共有する。</p>	<p>①生徒の学習内容の質や主体的に学習に取り組む態度が向上し、学びに向かう力・姿勢について教員の理解が深まったか。</p> <p>②学校目標で掲げられている資質・能力につながる視点を持った授業を共有できたか。</p>	<p>①授業ごとに振り返りシートを記入させることにより、生徒が自ら目標を立てて目的意識を持って授業に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>②他者との協働や、協働による自己の考えの広がりについては生徒の実感が不十分だった。</p>	<p>①学びに向かう力・姿勢についての教員の理解を深める研修等の工夫が必要である。</p> <p>②ICT機器の活用により学習に向かう意識を高めたり、教材の提示や展開を工夫したりする必要が有る。</p>	<p>①生徒が積極的に学習に取り組めるよう工夫がうかがえた。達成感を味わうことでさらに意欲の涵養が図れるのではないだろうか。</p> <p>②ICT活用の授業が進んでいくことで、学習意欲が高まることは予想されるが、教材作成や活用研修の苦勞が覗える。</p>	<p>①目標を黒板に板書したり、振り返りシートを記入させたりするなどの取り組みが各授業で行われている。生徒の学習意欲を高めるため、引き続き授業内容や学習評価の方法を検証し、共通認識を持って授業を行うことが求められる。</p> <p>②校内 Wi-Fi の整備が進み ICT を活用した授業が展開されるようになった。また、ICT 機器を活用しながら「わかった・できた・つながった」を意識した授業づくりが見られるようになった。今後は他者との協働や自己肯定感を育む授業づくりへの取り組みが必要である。</p>	<p>①研究授業や授業見学週間などとおして授業方法についての検討を進めるとともに、「めいほうメソッド」を活用して、共通認識をもって授業が進められるよう研修に努める。</p> <p>②ICT活用に向けた WG を設置し、ICT機器を効果的に活用する授業づくりを検討する。また、生徒の自己肯定感を見取る手立てや評価方法について継続的に検証し、改善に努める。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒の規範意識を定着させ、社会の一員としての自覚と自己有用感を涵養する。</p> <p>②「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制により、生徒が自己の課題に気づき、その解決に向けて行動(相談)する力を育む。</p> <p>③学校行事や部活動等を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を育む。</p>	<p>①豊かな社会性の育成を推進し、自己の課題の解決のため、専門性を生かした支援、チームとしての取り組みを行う。</p> <p>②学校行事や部活動を通して、生徒が主体的に活動できるような環境を整え活性化を図る。</p>	<p>①生徒の課題を的確に把握し、SC、SSC、外部機関を活用しながら相談室を運営し、組織的支援体制を構築する。</p> <p>②生徒の自主的な活動を重んじ、充実し満足感が得られる環境作りを進める。</p>	<p>①問題行動の様態が改善できたか。不登校生徒が10%程度減少できたか。</p> <p>②生徒会執行部やフロンティアチームが主体的に学校運営に携わることができたか。入部後の継続率が90%維持することができたか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、生徒の行動範囲が広がったためか、問題行動件数も昨年度より増加していった。</p> <p>②不登校生徒は昨年度よりも7%程度増加した。SC相談件数は昨年度より30%増加した。</p> <p>③文化祭、球技大会など学校行事を中心に生徒が主体的に携わることができた。部活動加入率23%と低いが1,2年次の退部率が減少している。四つの運動部、一つの文化部が全国大会に出場し活躍した。</p>	<p>①多様な環境にある生徒への指導が年々難しくなっている。保護者との連携を含め継続的な働きかけが必要となっている。</p> <p>②不登校生徒の現状を担任のみではなく、年次・教育相談・管理職で情報共有、支援策の検討を組織的にすることを継続していく。また、家庭訪問や外部機関との連携などを通じて、不登校生徒と繋がりが続けることが必要である。</p> <p>③自主的な意識を高められるよう、外部機関との連携を取りながら活躍の場を増やしていく必要がある。今年度は体育館改修があり、地区センター等を利用して部活動を継続させた。来年度はグラウンド整備もあり、より工夫して部活動離れを食い止めたい。</p>	<p>①②多岐にわたる生徒へのサポートをしていただき有難い。子供たちへのサポートは近隣を交えてさらに充実させていただきたい。</p> <p>③体育館改修など活動環境が制限されたにも関わらず、部活動の活躍も素晴らしいものであった。活動することができなかった地域ボランティア活動も今後は是非復活させてほしい。開校当初より行っていた子ども食堂ボランティアなどを通して、生徒たちの自己有用感も高まると思える。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、問題行動件数が増加する傾向が見られた。引き続き、各種講演会や継続的な指導などとおして、生徒の規範意識の醸成を図る必要がある。また、SC やSSW や外部機関を利用した組織的な支援体制を構築することが重要である。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響で中止・縮小していた研修旅行や球技大会、文化祭を実施し、生徒の主体的に活動する場面を増やすことができた。今後は、生徒会主体のボランティア活動を含め、より多くの生徒が積極的に活動する機会を増やすことが必要である。また、全体として部活動加入率は低調であったものの、全国大会出場などの成果は得られた。今後は部活動を続けさせる工夫も必要である。</p>	<p>①引き続き外部機関との連携を強化し教育相談体制を充実させるとともに、課題をかかえた生徒や保護者に対して情報提供等の働きかけを進める。また、情報共有会とおして、組織的な支援体制の構築に努める。各種講演会を実施し、規範意識の醸成に向けて生徒に継続的な働きかけを行う。</p> <p>②生徒の活動意欲を高め、達成感を得られるような学校行事を計画するとともに、部活動を継続するよう生徒に働きかける。また、生徒会を中心としたボランティア活動も検討する。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	○社会生活実践力を育成し、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	①自己理解を深めるとともに、他者への理解も深めることを通して生徒が自己の役割や責任を認識し、社会とつながり生きる力を身につけるための支援を行う。 ②生徒が主体的に将来を考え、個々の関心や能力、適性に合った進路を実現するための支援を行う。	①「総合的な探究の時間」を中心とした学習活動や様々な体験活動を通して、社会や職業、働くことの意味などに対する理解を深めさせる。 ②生徒一人ひとりの進路実現のために、個別面談やガイダンス等とおして適切な情報を提供する。	①各年次において「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア教育プログラムを計画的に実施することができたか。 ②生徒のニーズに合った情報提供を、適切な時期に行うことができたか。	①各年次とも「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア教育プログラムを計画的に実施し、社会や職業、働くことに対する理解を深めさせた。 ②生徒一人ひとりのニーズに応じた情報を適切な時期に提供し、進路実現のための支援を行った。	①勤労観、労働観をより効果的に育成するため、「総合的な探究の時間」と他教科との連携を強化する。 ②基礎力診断テスト、レディネステストの活用を見直し、生徒がより主体的に進路設計をできるようにする。	①自己理解を就労意欲へ繋げるためには多くの体験が必要であるので、その機会をさらに充実させていただきたい。 ボランティアや地域行事参加により自分の良さに気づき、その自信がより良い進路活動へと繋がるのではないかと。 ②卒業時に進路活動中の生徒が心配である。早めに自己理解と進路設計に取り組み力を育めるようにさらにサポートしていただきたい。	①「総合的な探究の時間」の中でキャリア教育を計画的に実施することができた。今後はコロナ禍で減少したボランティアやインターンシップ等の活動をとおして、生徒に社会や職業、働くことへの理解を深めさせる機会を設ける必要がある。 ②各年次で進路ガイダンスや基礎力診断テストレディネステストを実施し、生徒の進路実現に役立てることができた。引き続き、その在り方や活用方法などを検討する必要がある。	①「総合的な探究の時間」の中で活用するキャリア教育の教材やガイダンスの内容について検討を進めるとともに、インターンシップや「仕事の学び場」への参加を推進し、組織的な進路指導に取り組む。 ②キャリアプログラムを計画的に実施するとともに、プログラムについての検討を継続する。また、「ゆめラボ」を通して進路活動中の生徒に対する情報の提供に努める。
4 地域等との協働	①地域や外部の諸機関等との連携を図り、地域とともに学びあう教育活動・学校運営を行う。 ②教科指導等における連携・協働を積極的に推進し、生徒の成長の見守りと学校に対する理解と信頼を深める。	①生徒が充実した学校生活を送れるよう、生徒のニーズに対応する外部機関との連携を図る。 ②地域や外部機関との連携を図り、「社会とつながる」ことを重視した教育活動の充実を図る。	①各年次団と関連グループと連携して、生徒が外部機関を利用できる環境を整える。 ②地域や外部機関の人材を活用した教育活動を展開することにより、生徒の成長を促す。	①支援が必要な生徒やその保護者が外部機関とつながり、利用することができたか。 ②「社会とつながる意識」を持たせる教育活動に取り組むことができたか。	①外部機関と連携して、外国につながる生徒対象の進路ガイダンスを開催した。 ②専門学校の講師や、外部機関の方を講師に招いた授業実践により生徒が社会とのつながりを意識させることができた。	①外部機関とつながることのできる機会を増やすよう努める。 ②校内の教育活動のみならず、生徒が地域で活動できる機会を増やしていく。	①多様な生徒への支援が必要と思われるが、外部機関との連携を深めていきたい。 ②感染症拡大防止のために中断されていた地域との交流や教育力を教育現場で活用していただきたい。学校からの情報発信を是非行ってほしい。 地域行事への参加やボランティアなど生徒の活躍の場を提供したい。	①外部機関と連携して、外国につながる生徒対象の進路ガイダンスを開催することができた。次年度は、時期等も検討し、外部機関との連携をさらに進める必要がある。 ②コロナ禍の影響を受け、従来実施してきたボランティア活動が昨年度と同様に実施できなかった。コロナの影響が少なくなってきた中で、今後はボランティア活動等の機会を増やす必要がある。	①多様な生徒の支援に向けて、地域や外部機関との連携による教育活動の展開に積極的に取り組む。 ②生徒会を中心に、ボランティア活動や地域との交流に向けた取り組みを再開し、生徒の活動機会の拡大を図る。
5 学校管理 学校運営	①生徒の安全と教育環境を確保し、耐震工事への対応と新校舎の効果的な使用方法を策定する。 ②地域と協働した防災体制づくりと防災教育を推進する。 ③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。 ④教員のワークライフバランスを推進するとともに生徒と向き合う時間を確保するため組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①生徒の学習環境を整える。 ②校内の防災意識を高める。 ③④不祥事の根絶を意識した職員の連携と校務の効率化を図る。	①体育館改修を安全に進め、生徒の活動場所やICT利用の環境整備を整え、効果的な活用方法の共有化を図る。 ②防災意識を高めるために、防災体制の見直しおよび周知徹底のための職員研修会を実施する。 ③④Teamsを活用した情報共有と研修を計画する。	①体育館改修中に生徒の活動が安全に行えたか。一年次生徒の一人一台端末の支援をすることができたか。ICT機器の利活用についての情報を共有することができたか。 ②防災に関する研修会を実施することができたか。 ③④情報共有が進み不祥事防止につながったか。	①体育館改修工事中の授業・部活動が安全に行えるよう場所の確保やICT教材の充実を図ることができた。1年次生徒の一人一台端末のために支援することができた。 ②防災備蓄品の適切な保管および補充と職員防災体制の研修を行うことができた。 ③研修により不祥事を未然に防ぐことができた。 ④ICTの活用により、職員の仕事の効率化が図られた。	①引き続きグランド改修工事が安全に行えるよう学習環境を整える。1,2年次生の一人一台端末の支援を実現させる。教室のICT機材を充実させる。 ②生徒の防災意識をさらに高められるよう情報提供を工夫する。地域との協働場面を検討する。 ③職員間の情報共有が適切に行われるよう職場環境を整える。 ④ICT活用の研修を継続していく。	①体育館改修工事やグランド改修、昇降口周辺工事などかなりの期間工事が続いているが、生徒の学習に支障が無いよう配慮工夫がなされていた。最後まで安全配慮を行ってほしい。 校門付近の花が心のケアに繋がっている。 一人一台端末の活用により、授業の充実は図られるであろうが、不適切利用による事故に繋がらないよう、指導も行ってほしい。 ②生徒や職員の防災意識や安全行動の確認、地域との情報の共有を進めていただきたい。	①体育館工事中の授業や部活動は、安全に配慮して実施することができた。次年度はグランド工事が予定されている中で、今年度と同様に安全に活動できる場所の確保が求められる。 一人一台端末が導入される中でWi-Fi環境の整備を進めることができた。今後は教員のICT利活用のスキルの向上が求められる。 ②交通安全の意識向上を目的にスクエアストリートを実施することができたが、地域と協働した防災訓練は実施できなかった。グランド改修工事が予定される中で難しい面もあるが、次年度以降は情報の共有を含め、地域との連携も模索する必要がある。 ③計画的に事故防止研修を行うことができた。1年を通して大きな事故・不祥事はなかった。 ④打合せや会議、情報の共有、勤務整理等にTeamsを活用し、仕事の効率化に利することができた。	①グランド工事中の授業や部活動についての協議を進め、安全に活動のできる場所の確保に努める。 ICTを活用した研究授業や研修会を実施し、効果的な利活用についての共有化を図る。 ②地域と連携した防災訓練計画を進めるとともに、計画的に避難訓練やシェイクアウト訓練を実施する。 ③計画的に事故不祥事防止研修を実施するとともに、校内の初任者研修において事故・不祥事防止に向けた研修を実施する。 ④Teamsを利用した生徒の欠席連絡システムを導入して朝の打合せ時の電話対応の軽減を図るなど、引き続き校務の効率化に向けて検討を進める。